

令和元年度 第6回（通算第21回） 日立市立学校適正配置検討委員会 会議録

日 時	令和2年2月20日（木） 午後2時から4時まで
場 所	市役所 304会議室
出席人数	（1）委員 20人（5人欠席） （2）事務局 教育部長、学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員 計26人
議 事	（1）前回会議録の確認 （2）（仮称）学校再編計画（素案）について
そ の 他	（1） 次回日程 令和2年3月23日（月）
協議内容	<p>（委員長） 事務局から、資料の説明をお願いします。</p> <p>（事務局） それでは、説明します。 前回（1/27）の会議で、委員の皆様から多くの貴重なご意見をいただきましたので、それらのご意見も踏まえ、再編計画素案の内容を改めて見直しました。見直しに当たっては、初めて素案を目にされる方にもご理解いただけるように、できるだけ分かりやすい表現となるよう見直しました。 また、併せて、学校再編とどのように繋がるのか、「^{つか}掴みにくい」と思われる箇所についても可能な範囲で見直しを行っています。</p> <p>資料の目次をご覧ください。 加除修正箇所については、「網掛け」又は「見え消し」で表しました。以下、本文についても同様の取り扱いとなっています。</p> <p>それでは、1ページをお開きください。 この「Ⅰ章 はじめに」と続く「Ⅱ章 学校の現状と課題」は、事務局が責任をもって取りまとめする予定ですが、網掛け部分を見直しました。ちょうど真ん中の「さて」から始まる網掛け部分については、新たに「基本方針」について加えたほか、分かり易いように文言を整理しました。</p>

続いて、第Ⅱ章の「学校の現状と課題」に関して、見直した部分について説明します。

主に文言の整理が中心ですが、1点だけ項目を追加しましたので、4ページをお開きください。

新たに5番として、学校適正配置基本方針について、説明を加えました。第Ⅲ章の前に、まずは、基本方針の内容について、確認していただく必要があると考え、内容を抜粋して盛り込んだものです。

続いて、第Ⅲ章の変更点について説明します。5ページをお開きください。

「学校の新たな「かたち」づくりの考え方について」です。

まず、ここでは、大きくは、6ページのポンチ絵（イメージ図）の構成を見直しています。学校再編の推進の下側に基本方針のポイントとなる事項を入れました。下から上に見る作りは変わりませんが、基本方針に基づき、学校の再編を推進することで、小中学校の連携強化を図り、各種の教育施策を効果的に推進しやすくして、最終的に日立市が目指す教育の実現に寄与していくという流れが一目で分かるような形にしました。

そのほか、ポンチ絵の修正点も併せて説明します。

「指導体制のさらなる強化」ですが、ポンチ絵をご覧くださいますと2つのポツで示した「小中一貫教育カリキュラム」と「連携型小中一貫教育推進」があります。前の資料では、この下に3つ目のポツで、「小中学校協働による指導」という項目を設けていました。小中学校の教職員が児童生徒の発達段階を意識しながら、成長を見守ることで、自己肯定感を高め学習意欲の向上を支えていくといった内容を入れていましたが、関連のある、一番上のポツ「小中一貫教育カリキュラム」に含めることとし、項目を削除しました。

続いて、2点目は、ポンチ絵の左側、「学校が連携しやすい環境整備」3つ目のポツについても、2点見直しています。まず名称を「ICT環境の整備充実」から「連携のためのICT環境の充実」としました。理由は、再編にかかわる内容に絞って、内容もコンパクトにまとめ直したものです。

最後に3つ目の変更点ですが、「地域とともにある学校づくり」に関する部分です。

いずれも項目名を見直しました。「コミュニティ・スクール」に「学校運営協議会制度の導入」を加えました。また、「ふるさと教育」を「ひたらしい教育」に変更しました。

これについては、「地域を愛し支える人材」「未来の日立を支える人材」の

育成を目指す、教育施策全体にも関わる大切な取組ですが、ふるさと教育よりも分かり易く、身近に感じられる表現に変更したものです。

引き続き、そのほかの変更点について説明します。

ページが戻りますが、5ページと7ページの部分については、只今、ポンチ絵で説明したとおり、別項目として設けていた「小中学校協働による指導」の中身を5ページの「ア 小中一貫教育カリキュラム」の中に含めました。

次に8ページをご覧ください。

7つのエリア内の小中学校を見易いように表にしました。なお、「②日高・滑川エリア」については、田尻を加え「日高・田尻・滑川エリア」としました。

また、9ページの図面ですが、学校名の入っていない、7つのエリアだけを示した図面とエリアに現在の学校を載せた図面の2種類の図面を、前の資料には載せていましたが、これを9ページのとおり一つにまとめました。

10ページをご覧ください。

「連携のためのICT整備」については、ポンチ絵で説明したとおり、再編に関わる内容に限定し、見直しました。

「地域とともにある学校づくり」についても、ポンチ絵で説明したとおり、タイトルを分かり易いものに変更しました。

続きまして、11ページの「2 その他の事項に関する考え方」の変更点について説明します。

まず(1)については、表題を「小中学校の再編のグループ化の目安」としていましたが、より分かり易い表現とするため「目指す学校規模を下回る学校への対応」としました。

(1)については、他に2点見直しております。複式学級については、市民の中には、なじみが薄い方もいると思われることから、アの下※のとおり補足説明を加えました。

さらに、12ページにあるように、ウとエの項目を新たに加えています。

「(2) 通学」については、前の資料では、一つの文章でまとめていましたが、内容に応じて「距離」「通学方法」「安全性の確保」という3つの項目に分けました。

続いて13ページをご覧ください。「(6) その他」です。

前回の資料にありました「通学支援」については、「(2) 通学」に集約しました。また、経済的負担の部分については、「ウ 保護者負担の軽減」に内容を入れました。

「イ 児童生徒への配慮」については、教職員の継続配置及び加配について、より分かり易いように補足説明を加えたほか、人的配置を通じて教職員の負担軽減にも努めることを追記しました。

引き続き、第IV章の変更点について説明します。15ページをお開きください。

2番に学校再編計画の位置づけが分かるように表を加えました。図にあるように、他の各種計画との整合性も考慮しながら再編を進めていくことを示すものです。

16ページをご覧ください。

※の網掛け部分については、前の資料で、文章の中に含めていましたが、この考え方は、他のエリアでも同様なので、欄外に載せ、参考情報とする形にしました。

次に17ページをご覧ください。再編スケジュールです。

欄外に網掛けで補足説明を入れましたが、「統合準備、統合」の内容の補足説明です。

この表で申し上げますと、第1期内に校舎の改築も含めて何が何でも統合を完了させるものではないということ、そのような捉え方をできるだけ避けるため入れたものです。再編の準備に着手する（協議の準備を始める）ものであるという内容になります。

また、エの項目名については、「配置案」の前に「第2期末までの」という表記を加えました。他のエリアも同様です。

次に、ページが飛びますが、21ページをお開きください。

本庁エリアの中学校の統合スケジュールを見直しました。これまで、駒王、平沢、助川の3校については、第1期中に一緒に再編の準備を進める計画案としていましたが、統合スケジュールについて、これまでいただいたご意見も踏まえ、3校同時に進めることの影響などについても、改めて慎重に検

討した結果、目指す学校規模の面からは、助川中は当面維持できる見込みであることから、段階的に再編を進める形に見直しを行いました。

具体的には、再編スケジュールにあるように、生徒数、校地の広さ、グループ化する小学校との関係などから、最初は平沢中と駒王中の再編を進め、助川中については今後、生徒数の推移を見て統合の時期を検討することとしました。

25ページをお開きください。

まず、再編スケジュールの上の網掛けですが、台原中の統合時期について、文言を追加しました。また、再編スケジュールの下の網掛けは、統合の順序が分かりにくかったので、新たに補足説明を加えました。

29ページをお開きください。

先ほどエリアごとの統合スケジュールでも触れましたが、再編に着手する順番や着手から統合までの期間の目安を明示しました。下の点線の矢印で、再編の準備に着手する順番を示しています。

最後に31ページをお開きください。

統合準備委員会について、中身を補足しました。構成メンバー、協議を進める際は事務局が参加することを明記しました。前にも説明しましたが、統合準備委員会では、イに記載のとおり、新しい学校を開設するために必要となる具体的な事柄を協議することを予定しています。これは13ページの「(5)学校統合の考え方」に基づくものです。学校規模による吸収合併ではなく、対象となる学校間で新しい学校を一緒に作っていくことを想定したものです。時間も十分とりながら協議をして決めていただきたいと思います。

事務局としても、例えば、新しい学校名になった場合、対象校の歴史や伝統をどう継承しているのかなど、できる限り他市の事例なども紹介しながら、協議を進めていけるように考えています。

全体の説明については、以上です。

(委員長)

再編計画の素案ということで、変更されているところも多くなっています。説明を受けながら、確認していただいたと思いますが、分量も多いので区切って、ご質問やご意見を伺いたいと思います。

全体的なところで、何かご意見、ご質問があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

目次の「ひたちらしい教育」がひらがなだが、本文の表記が、漢字になっている。ひらがな表記のことが多いようなので、ひらがなに統一したほうがいいのではないか。

(事務局)

ひらがなで統一した表記としたいと思う。

(委員)

15ページの「2 関連する計画との関係」について。

日立の総合計画という大きな計画の中に、3本柱で大綱と振興基本計画、学校再編計画があり、教育振興基本計画の中に、また3つの関係する計画があつて、それとの関連付けを言いたいように見えるが、関係などがよく分からない。通常は、大綱というのは別の所にあるのではないか。どう見たらいいのか。

(事務局)

今後、表現を工夫したいと思う。

総合計画は、市の最上位計画なので全てが含まれる。その中に教育部門があり、その中に、教育大綱、教育振興基本計画、学校再編計画の3層があるということである。教育振興基本計画には、更に3分野の計画が含まれるということである。振興基本計画を下支えするのが学校再編計画となる。

(委員)

それであれば、横並びの書き方にして、その下に再編計画を配置したほうがいいのではないか。団子状態でよく分からない。

上に「取組期間」があり、下に「優先順位」があるが、この位置に関係図を配置する目的が分からない。

もう1つ。29ページの全体スケジュールを先に説明して、その後に詳細なスケジュールを置いた方がいいのではないか。詳細を先に説明するとぼやけてしまう。

(事務局)

日上市教育振興計画を下支えするものが学校再編であることをクローズアップしたかったのですが、このような図になったが、全体を見ると分かりにくいので工夫したいと思う。

1と3の間に2を新たに加えた目的についてのご質問だが、計画の関係を説明したかったのですが、1と2を続けて記載した。3と同列になっていると分かりにくいので組み替えるなど、構成を工夫したい。全体スケジュールの置き場所なども含めて、構成を再検討して分かり易くしていきたい。

(委員長)

時系列が分かるような書き方ができるといい。

補足すると、教育大綱は首長が作るもの、教育振興計画は教育委員会が作るもので、5年単位で出てくるものである。今回、教育長が変わっているが、継続した形である。事務局から下支えという説明もあったが、設定される年数も違うので錯綜して見える。年数の違いや再編計画の関わりを簡単に表現する程度でいいのではないか。

では、4ページくらいまでのところで、気になるようなところはあるでしょうか。4ページは、基本方針についての説明が追加されています。

続けて、9ページくらいまでではいかがでしょうか。

(委員)

5ページの図の説明が見出しの内容だと思うが、絵の文言と本文の見出しが合っている所とそうでないところがある。図は、説明的な構成になっているべきだと思うので、文言の統一など、整合をとったほうがいい。

(事務局)

表記を改めていきたい。

図5の「学校規模の維持・確保」がベースにあることを、ポンチ絵を見れば分かるように改善していきたい。

(委員)

私は市外出身で、エリアの名称がイメージしにくい。「本庁エリア」「南部

エリア」など、(地名が入っていないので)イメージしにくい。今後、説明していく中で、分かりにくい場合も出てくると思うので、(エリアの名称を)検討してもいいのではないか。

(事務局)

これまでの中で、エリア分けは大枠で支所管内を目安にしていることを説明してきた。

ご指摘のとおり、分かりにくい場合もあるかもしれないので、表記を検討していきたい。

(委員)

まず、前提を伺いたい。この検討委員会の組織は来月で終わりになるのか。最後の「進め方」に、仮称で統合準備委員会とあるが、検討委員会は3月で一旦終わりになって、次からは、統合準備委員会で協議していくことになるのかというのが1点目。

2点目は、この素案は、3月の時点で計画として決まって、「素案」という文言が取れることになるのか。計画ができたなら、どのような形で公開するのか。具体的に言うと、統合準備委員会の人だけに計画を出すのか、ホームページ上での公開となるのか。

細かいところで、7ページの「小中学校のグループ化」で、例の中に「○○学園」と出てくる。分かり易いようにということだと思うが、初めて出てきた言葉で、意味が分からない。「小中一貫教育グループ」だけで十分伝わると思う。

(事務局)

1点目について。来月で終わりということではない。検討委員会の任期は、計画についての「提言」を受けるまでということになっている。教育委員会に「提言書」を出して検討委員会の解散となる。

2点目について。統合準備委員会は再編計画が策定されてから設置になる。計画ができるまでの検討委員会、計画ができてからの統合準備委員会なので、重複することはない。

3月で素案が確定ではない。素案ができた段階で、市民の皆さんの意見を伺う機会を設け、いただいた意見を検討委員会にフィードバックして素案を確定し、「提言」として、教育委員会が受ける。検討委員会からの提言を受

け、教育委員会での手続きを経て行政計画として確定する形である。

(委員)

公開した段階で、かなり混乱を来たすおそれがあるかもしれないと思う。

(事務局)

混乱というのが、具体的にどのようなものなのか分からない状態であるが、検討委員会での意見を踏まえて素案としてまとめたものを、しっかりと市民の皆さんに丁寧に説明し、混乱のないように努力したい。

なお、市民の皆さんに意見を伺う具体的な手法については、パブリックコメントや説明する機会を、一定期間を設けて行うことを想定している。

7ページの表記の仕方は、分かり易いように加えたものである。つくば市などで、小・中学校グループの通称として、チーム名のように使っているものである。逆に分かりにくいということであれば、削除するなり工夫したい。

(委員長)

今後の流れや、ご心配があるようなら、発言していただければと思います。

(委員)

統合して新しい学校として作っていくといっても、実際には小学校がなくなる。それが分かった段階で、そこに入れる親の気持ちとして、なくなる予定の学校に入れるのか、というところが気になる。急激に生徒数が減っていくのではないか、そのようなことが起こるだろうと思っている。

(委員)

「6 進め方」について。これがパブリックコメントで公表されることになるが、これを見た人が今後、どのように再編が進んでいくのか分かるように、ここでは、いきなり統合準備委員会の設置となっているが、前回の検討委員会の資料6にあるように、素案の作成から計画策定、その後に統合準備委員会を設置するまでの流れを記載してはどうか。いちいち説明を求められるのではないかと思う。「丁寧かつ柔軟に策定作業を進める」とあり、保護者の方の関心は「いつ、どうなるか」なので、ある程度の見通しができるような資料を添付しておく、様々な誤解や質問を受けなくてもいいのではないかと思う。

(事務局)

ご指摘のとおりだと思うので、パブリックコメントの際には、しっかり説明していきたい。これ自体は、素案なので、案の中に策定のスケジュールを入れるのは、相応しくないのではないかと思う。パブリックコメントの案内の中などに、パブリックコメントをやった後のスケジュール感をお示しするような資料を、別に用意したほうがいいのかと思う。ご質問いただいたように、保護者の方の中にも分からない方もいらっしゃると思うので、しっかりと資料作りをしていきたい。

(委員長)

素案に戻ります。10ページ以降で、13ページくらいまででいかがでしょうか。

11ページの複式学級についての説明部分では、「教員の負担がある」程度でいいのではないか。「※2」についても、説明の意図が不明確なので、表現を検討してほしい。

16ページ以降でいかがでしょうか。

(委員)

17ページの再編スケジュールで、第1期の「統合」が決定事項であるように、この期間に統合を終えるように見えてしまう。見せ方を考えたほうがいいのではないか。先ほど意見のあった、全体のスケジュールを、仮に前に持ってくるのであれば、その程度の見せ方で十分ではないか。

(委員長)

29ページの全体スケジュール程度に収めておいた方がいいということでしょうか。

(委員)

見せ方の問題だ。

(委員長)

見せ方の問題というと、17ページのウの表は、具体的には、要らないとい

うことですか。

(委員)

「統合」と書かれていることに質問が集中するのではないかと思います。

(委員長)

例えば、29ページの表では点線の矢印になっていて、17ページの表とは、だいぶ具体性が違っているが、今のご意見について、事務局としてはいかがですか。

(事務局)

(「統合」という文言とは) 違う表現を検討してもいいのではないかと感じた。

期間、時間軸的なことでいうと、この期間中に統合を終えるというように見えるというご指摘だと思うが、前回も同じようなご指摘をいただいたので、それを反映して、29ページの「全体の再編スケジュール」では、「この期間中に着手をして、この5年間に統合を目指す」という説明を加えた。委員のイメージには、こちらの方が近いのかと思う。個別エリア部分は修正していない。

29ページの表があれば、個別のスケジュールは割愛してもいいのではないかとということだが、ご自分の地域を見る場合、エリアごとの理由などを見る方が多いのではないかと思います。その際に、個別のスケジュールもあつたほうがいいのではないかとということで記載している。委員の皆さんが、どうお感じになられたか、どのように表記していったらいいのか、協議していただきたい。「統合」の文言と矢印の付け方では、だいぶ印象も違うと思うので、改善していきたいと思う。

(委員)

29ページのアバウトなものを前に持ってきて、エリア別のスケジュールは、もっと具体的に書けばいい。「統合準備・統合」と書くのであれば、大体のスケジュールを入れて、具体的には、「(統合の時期は) ここを目指します」という目標を書いて、その間に、「準備委員会の設置」などを書いて、「最終的には、この辺でどうにかしますよ」ということを書けばいい。そうでなければ、スケジュールは全体の1枚だけでいいということもあるだろう

が、詳細を書くのであれば、具体的に書けばいいと思う。「アバウト+アバウト」では意味がないと思う。

(委員)

3点申し上げたい。まず、1点目。先ほど、委員長からあった複式学級の説明については、前回の会議でも、「学校の規模には、メリット・デメリットのどちらもある」と委員長から説明があったので、ここでも、そのように書いておけばいいのではないか。

2点目。今の議論については、実際に、29ページはかなり詳しく書かれていると思う。

矢印の「●(基点)」は検討を始めるところ、矢印の先のところは検討が終わってるから統合。「5年間でやる」とはっきりしている。矢印の始まりの若干のずれは、検討の開始時期を1年後とのイメージで書いている。これを、個別のところ、1年ごとに「いつ着手して、いつ終わる」と書けばいいと、個人的には思う。いつ、計画が策定できるか分からないから具体的な年を入れられないのだと思う。

3点目は、全体に関わるが、今回、助川中に「経過観察」が加わった。会瀬小は経過観察なので、(30ページの図に)残っているが、助川中は残っていない。経過観察としたなら、助川中も残すべきだろう。10年後には、まだ残っているということになる。台原中についても同様である。

(委員長)

書き方の整合性について、ご指摘がありました。3人の方から、スケジュールの書き方でご意見がありましたが、他の方で、スケジュールの書き方や示し方でご意見等ありましたらお受けしたい。この場で、皆さんに出していただくことが、今後のパブリックコメントや説明会での参考になりますので、いかがでしょうか。

(委員)

示し方については、29ページのほうが分かり易くていいと思う。「着手から統合までは、5年程度」とあるので、矢印のほうが分かりやすい。17ページの「※」の説明が分かりにくい。「期間中に、協議の準備を始める」とあるが、「統合する」とは書いていない。29ページの矢印を使って書くといいのではないか。25ページの①～③も、統合と移転は同時にできないので、矢

印でずらして書けばいいと思う。

(委員長)

ほかにスケジュールに関わって、いかがでしょうか。

(事務局)

29ページのリード文ですが、「5年程度を目安」としています。短くなることも長くなることもある。事務局としても、元々、そのような意図があったということなので、申し添える。

第1期の順番がずれている点は、具体的に何年度からというよりは、どちらかといえば優先順位の視点からのもので、その先、5年程度見てほしいということである。

(委員)

目標はあくまでも目標であって、そこまでにやらなければならないということではないと思う。スケジュールというのは、「計画」とか「設置」とか言い切ってしまうと、「そこまでに」となるかもしれないが、目標というのは、その時の1年や2年のずれは説明できる。言葉尻を捉えてしまうと、説明がつかなくなると思うので、いい言葉を選ばれたらいいと思う。

(委員)

29ページの表には、豊浦小が抜けている。17ページの表には入っている。最終的には統合するのか、しないのか。17ページを見ると、統合するように見える。

(事務局)

豊浦小は、そのまま残るので、第1期、第2期で統合に関わらないので書いていない。

第3期、第4期でも、そのまま存続するので書いていないということである。具体的には、統合に関わらないものは書いていない。

(委員)

個別のスケジュールのように、29ページの表にも全ての学校名が入っていればいいと思う。

(事務局)

個別の表には、全部の学校名が入っているのに、全体の表では入っていないので、「自分の学校はどうなるのか」ということだと思う。存続する学校が分かるように工夫したい。

(委員)

29ページの表だけになってしまうと、「検討」とか「経過観察」ということも分からなくなってしまう。それも表現できるといいと思う。

(委員長)

いつ検討し始めて、いつ統合が完了するのか、校舎を建てるところなど、具体的な統合のプロセスの記述が気になるところなので、はっきりさせられる部分は、はっきり書いた方がいいだろうということが、大体のご意見だったと思います。

委員のご意見は、エリアごとのスケジュールはなくてもいいということですか、両方あったほうがいいということですか。

(委員)

両方あったほうがいい。

(委員長)

スケジュールに関わっては、エリアごとのスケジュールもしっかり書かれているほうがいい、29ページのような全体が分かる図もほしい、それぞれの表し方で、時系列的なところがはっきり分かるような表し方がいいというのが、共通のご意見ということでもよろしいですか。

(委員)

本庁エリアの小学校の統合と中学校の統合は、スケジュールで見た場合、考え方が違うと思う。中学校の場合、前回までは新校を作って、そこに一緒になるということだったと思う。平沢中と駒王中では、駒王中の校舎に平沢中の生徒が入り、校舎を作らないので、合意できればすぐできると解釈すればいいと思う。29ページの表を見て、打合せだけすれば短期間で、駒王中の校舎が空いているから、すぐ（統合）できると解釈できると思った。

小学校の場合は、宮田小に教室が空いていて、仲町、中小路がポンと入れ

るのか、新校舎を作ってから入るのかによっては、スケジュール感が保護者によって違うと思う。

自分はこの計画に反対しない。納得しているが、1点だけやってほしいことがある。

なくなる学校は、ボロボロになって閉校になってほしくない。閉校式をしっかりやって、けじめをつけて、コミュニティの再編もやった上で、しっかりした状態でやりたい。

平沢や震災の関係で（改築等が）止まっている学校は、（生徒が）出ていってしまっている。駒王中は、来年4クラスになるが、平沢中は10人もいない（※平沢中学校の令和2年度入学予定者（新1年生）数は12人（2/13現在））。そうになると、閉校式なんてできない。そのような日程が書かれた上で、「校舎を作ってから（統合）」と分かれば、何年先か考えて、逃げていかないで、仲町や中小路に入れられると思う。31ページの(1)のア～ウが全て必要な学校ばかりではないと思う。校舎を作ってから（統合が）完了するところもあると思う。その辺りを見せていくと、パブリックコメントなどで、ノアの箱舟状態になって混乱して終わるということが無くなるのではないかと思う。見せ方とパブリックコメントのやり方は、検討委員会で協議させてほしい。

（事務局）

29ページの「全体の再編スケジュール」については、構成上の順番を変えると、現在の表の内容では情報が足りなくなると思う。宮田小に集約することが書かれていないし、統合後の新しい学校の位置が、駒王中なのか平沢中なのかも分からない。個別のエリアの方には、どこに集約するかが書いてある。構成上の順番を変えることによって、表記も変えなければならない。校舎の建て替えなどを、この表に含めると情報が多くなってしまって、分かりにくくなってしまう。どのように表現するか工夫したいと思う。できるだけ校舎も新しくしたいとⅢ章に書いているので、そのように考えてほしい。

先ほど、委員から、平沢中と駒王中の統合で、あくまでも例だと思うが、駒王中に（統合する）と話があったが、この計画案では平沢中に集約するイメージである。このエリアの中学校は、最終的には、助川中も含めて平沢中に集約するということである。

（委員）

今のお話は、この工程の中ではレアケースで、事務局がPTA側の情報を

よく聞かれて取り組むことであると思う。閉校式などは特別で、全体スケジュールは、凡例を決めて、シンプルな言葉で見るといいと思う。レアなケースで手厚くやらなければならないことは、そのエリアの説明会の時に、個別に説明していくことだと思う。全体を同じようなトーンでやると不平・不満が出ると思う。ご意見として出たものは事務局でよく吸い上げていただいて、地区ごとの各々の事情に応じてパブリックコメントや説明会はやるべきだろうと思う。

全体として見せるときは、統一感のある凡例等でスケジュール感を見せたほうが分かり易いと思う。

(事務局)

ただ今のご意見を踏まえて工夫したいと思う。

個別の学校の統合に関しては、統合準備委員会では、その学校の関係者のみが話し合うので、短くなったり長くなったり、(学校の) 閉じ方なども議論になるだろう。関係者の皆さんで協議していただき、もちろん、教育委員会もしっかりサポートしていく考えである。

(委員長)

個別のエリアまでは確認し尽くしていませんが、スケジュールに関わったご意見が集中してきたので確認しました。

時間の関係で、本日の段階での協議はここまでとしますが、次の会議で、引き続き、資料を確認していくことにします。

今のタイミングで、最後に発言しておきたいことがあればお受けします。

(委員)

そういうことであれば、言葉を整理してほしいと思う。例えば、21ページで、「統合校」とあるが、統合校なのか、新しいところに新設する学校をつくるのか、文言を分けてほしい。「統合校」＝「宮田小の校舎に入れる」と解釈すればいいと思う。校舎を作るなら、「場所は〇〇に統合し、校舎を作る」というようになると、気持ちも違うと思う。

(委員長)

説明を統一するということの課題だと思います。

(事務局)

表現については、適切な代替の言葉を探すなり、統一できるように検討したい。

具体的には、13ページの(4)にあるように、統合に当たっては、校舎の建て替えを行うことを原則としている。考え方は既に示しているが、個別の説明の中でも分かるように表現を工夫したい。

(教育部長)

統合までのスケジュールの標準スタイルの中に、統合に合意した時点で、細かいことも決めながら施設整備も進めていくことを示せば、5年間のスケジュール感が分かってもらえると思うので加えていきたい。

(事務局)

スケジュールについては、関心の高いところだと思う。保護者のお母さん方にもご意見をいただければと思う。

(委員長)

スケジュールの示し方で、ご意見をいただければと思います。

(委員)

例えば、大沼小だと2つに分かれることになる。本文を読めば分かるが、スケジュールの表では分かりにくい。表現するのも難しいだろうと思う。

塙山小などは、第2期末までの配置案であれば、「現 塙山小」ではなく、「塙山小」でいいのではないか。他の学校もそうだが、(第2期末までの)配置案で変わっていない地域もある。新しく名前が付けられる学校なのか、そのままなのか分かり易いのではないかと思った。

(委員長)

ありがとうございました。

それでは、本日の協議はここまでとします。

以上